

カーボンニュートラル!!

みんなで守ろう高知の未来

アクションプランで推進!!

みんなで語ろう、高知の未来

シンポジウム開催報告

高知県 脱炭素シンポジウム

2022年9月10日(土)に高知県脱炭素シンポジウムを開催しました。

広告



高知県の取組 高知県脱炭素社会推進アクションプラン

昨今の豪雨災害の激甚化、台風の大規模化などの背景には気候変動、地球温暖化が大きく関与しており、世界全体で取り組むべき課題です。高知県も地方自治体としてその責任を果たすべく、令和2年12月議会で2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにするカーボンニュートラルを宣言しています。

そして、カーボンニュートラルを実現していくために、具体的な取り組みの道筋を示す「高知県脱炭素社会推進アクションプラン」を策定し、今年4月から実行しています。全国1位の森林率、降水量、日照量など、高知県の特色と強みを生かして、経済と環境の好循環を生み出す計画です。

また、2050年の温室効果ガス実質排出量ゼロに向けて、2030年には

47%減(2013年度比)を目標とし、国の46%減を上回る意欲的な数字を掲げています。具体的に取り組むべき3つの柱を立ててKPI(重要業績評価指標)を設定し、県民・事業者・行政等が一体となってオール高知での取り組みを推進していきます。さらに、毎年度アクションプランを見直し、バージョンアップをしながら実効性を上げていきます。

未来の子どもたちに良い環境を残していくために、私自身が先頭に立つて進めてまいります。みなさんもこの主旨にご賛同いただき、ぜひ立ち上がっていただきますようお願いいたします。



高知県知事 濱田 省司

柱1 CO₂の削減に向けた取り組みの推進

①省エネルギー化②日照量や降水量、森林など豊かな自然資源を生かした再生可能エネルギー化の推進、③CO₂を吸収する森林づくりのための林業振興。



柱2 グリーン化関連産業の育成

①土佐の紙産業の技術を生かし、プラスチックの代替素材創出②森林・海のバイオマスを活用したプロパンガスの生産技術を開発し、地場産業に。



柱3 SDGsを意識したオール高知での取り組みの推進

国際目標のSDGsを環境の面から活用し、普及啓発・機運の醸成を図るとともに、行政が率先して取り組みを。



梶原町の取組 自然エネルギーによるまちづくり

環境省が進める「脱炭素先行地域」に本年4月、四国で唯一選定された梶原町。森林、水、風、太陽光等の資源を生かした自然エネルギーによる脱炭素のまちづくりを、地域で一体となって進めていると話されました。



梶原町長 吉田 尚人

特別対談

脱炭素の取り組みこそが世界のビジネスになる



高知県知事 濱田 省司

衆議院議員・元環境大臣 小泉 進次郎 氏



2019年から2年間環境大臣を務めた小泉進次郎議員をゲストに迎え、濱田省司知事との対談を行いました。最初に、濱田知事が小泉環境大臣の頃に日本がカーボンニュートラル宣言を行った背景について尋ねると、「2050年に向けて、日本は人口減少が進む一方で、世界人口は100億人を超える。拡大する世界のマーケットに向けて、日本は挑戦していかなければならない。脱炭素は、世界中で取り組んでいる。環境の技術、まちづくり、リサイクル技術といった、日本が得意とする技術が、世界を相手にしたビジネスとなり得る。脱炭素によって、環境と経済を一緒に進めていくことが必要と考えた。」と話されました。

これを受け、濱田知事は、高知の強みを生かす取り組みとして、土佐和紙の技術を応用したプラスチックに代わる紙容器産業の創出、木材や海藻などのバイオマス資源を使った自然由来のプロパンガスを開

発するエネルギーの地産地消化の取り組みを挙げ、「経済と環境の好循環を目指す」と意気込みを述べられました。

小泉議員は大きく頷き、世界では回収・再生した原料しか使わないものづくりが標準化しつつあることを紹介し、「もともとある産業を生かす、地場にある資源を使うことが産業育成につながっていく。いざという時に自前で賄えるエネルギーを持つことはとても重要で、取り組みが広がるよう国としても後押ししたい。」と話されました。

また、水力発電・太陽光発電等による電気の自給率が全国2番目の高知県において、電気を大都市に送るための送電設備の拡充をバックアップしてほしいとの濱田知事からの要望に、「同じ課題を抱える九州や北海道の知事と一緒に声を上げて大きな声にしていくことが大切。そうした『つなぐ』ところは、私もしっかりと汗をかいていく。」と話されました。

基調講演

森林率日本一の高知から始まる環境と経済が一つになる時代

衆議院議員・元環境大臣 小泉 進次郎 氏



脱炭素社会を見据えた産油国の動き

世界の主要国は、脱炭素に向かって加速的に取り組んでいます。注目すべきは、産油国であるサウジアラビアとアラブ首長国連邦です。この2つの国は石油で成り立っていますが、世界で石油を使わない国づくりが進めば、当然石油は売れなくなります。では、どうするか？太陽光や風力で再生可能エネルギーを作り、それで水素を作って売ります。サウジアラビアとアラブ首長国連邦から水素を買うことになれば、日本のエネルギー安全保障は何も変わらないことに気づいてほしいです。

電動車は世界の潮流

世界の自動車はEV(電気自動車)・PHEV(プラグインハイブリッド)が主流となり、電動化率1位のノルウェーはすでに90%を超えており、大阪万博が開催される2025年には、ノルウェーはガソリン車・ディーゼル車の販売が禁止となります。万博にやってきたノルウェーの人は、99%ガソリン車が走っている日本をどう見るでしょうか？

戦後、日本が世界に売ってきたのは燃費

がいい自動車でした。今や燃費は関係ありません。ガソリン車が売れない今、売れるものを持つ国に変わっていくしかないのです。

林業を活性化して好循環を

高知県は森林率が日本一で、林業の活性化がカギとなります。森はCO₂を吸収すると思われているのですが、残念ながら高齢化した木は吸収しないんです。古い木を切って再植林するサイクルを早く回し続けることが重要です。そのためには、森を価値を生む場所に変わっていく必要があります。

木を切って山から出し、マーケットに流すためには、道の整備も必要だし、お金もかかります。しかし、化石燃料に依存していれば、海外に莫大なお金が流れていきます。その金額に比べれば、林業の振興には全然お金がかからない。次世代に対して、循環型で回っていく経済社会をつくっていくことが、正しいお金の使い方だと考えます。

日本の活路は脱炭素にあり

これから減らしていくべきは、プラスチックと食品ロスです。環境大臣の頃、使い捨てのプラスチックをなくすための法律を作りました。お菓子の個包装が紙になり、ビー

ル会社がリサイクル100%のアルミ缶を作り、ペットボトルラベルレスになってきて、プラスチック削減は進んでいます。この方向で行けば、日本のその技術は世界に売れるようになります。

食品に目を向けると、国連が行っている貧困や飢餓の国への食糧支援は年間400万トンで、日本の食品廃棄量は年間520万トンです。現在、食品の値上がりが続いていますが、このロスをなくせば家計の負担が減り、環境対策にもなります。

日本はエネルギーの9割、食品の6割、衣料品は98%を輸入していて、衣料品は50%が売れ残っています。また、環境省の調べでは、一人当たり家の中に25着の着ない服があるそうです。

すべてにおいてエコの考え方に立ち、できる限り水平リサイクルやリユースを広げていくこと。こういったあらゆる分野において、世界は脱炭素の流れにあります。ここに日本の活路があります。今日から始まる新しい行動につながればうれしいです。

パネルディスカッション カーボンニュートラル宣言「未来へ、つなごう高知」～いまわたしたちができること～

パネルディスカッションには、高知県立高知国際高等学校(DPコース)2年の宗在希さんと服部輝樹さん、イオンモール高知ゼネラルマネージャー・楠本竜二さん、NPO法人環境の杜こうち理事長・内田洋子さん、梶原町長・吉田尚人さん、特別ゲストとして小泉進次郎衆議院議員が登場。それぞれの視点でカーボンニュートラルに向けて実践している取り組みを報告し、脱炭素が実

現した将来の高知の姿について、そして未来へとつないでいくために何をすればよいのかをディスカッションしました。

小泉議員は、「脱炭素の実現の先には、生きがい、やりがい、人とのつながりを感じることのできる地域がある。そういった彩りある地域づくりは、再生可能エネルギーとつながっている。また、脱炭素は地産地消の地域・経済をつくっていくこと。」

と提言。さまざまな事例を挙げて「地産地消をやっていくと脱炭素の実現につながる。」と話されました。

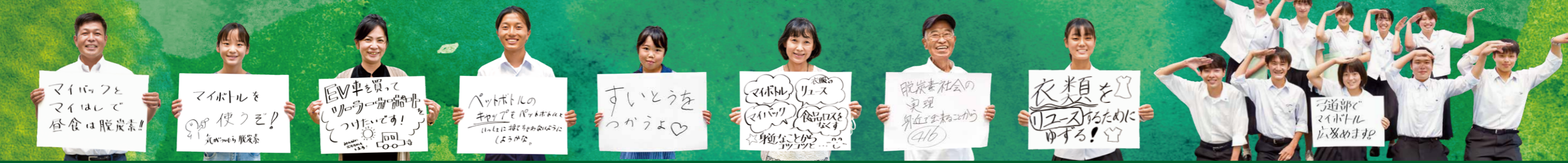
高校生が示したイラスト「私たちの望む2050年の高知の姿」には、全パネリストが共感。内田さんは「今、私たちは社会のしくみを変える大切な時代を生きていることを認識しなくてはいけない。」と言い、意識・行動の変容が重要であると話されました。

パネルディスカッションの様子を見守っていた濱田知事は、「皆様それぞれのお立場での、オール高知の取り組み、本当に心強く感じました。人と人とのつながりが保たれた元気で豊かな高知、それを実現していくためには、脱炭素がキーワードになる。」と述べ、県民一人ひとりが、できることから行動を起こしていただきたいと呼びかけました。

登壇者
高知県立高知国際高等学校DPコース 高校生代表
イオンモール高知ゼネラルマネージャー 楠本 竜二 氏
特定非営利活動法人環境の杜こうち 理事長 内田 洋子 氏
梶原町長 吉田 尚人 氏
【特別ゲスト】衆議院議員・元環境大臣 小泉 進次郎 氏



オール高知 みんなのカーボンニュートラル宣言 2050年カーボンニュートラルに向けて一人ひとりができることから始めましょう!



高知県林業振興・環境部 環境計画推進課

〒780-0850 高知県高知市丸の内1-7-52
Tel.088-821-4841 Fax.088-821-4530 E-mail:030901@ken.pref.kochi.lg.jp



エコアクションについて
くわしく知りたい方は
こちらの2つをチェック!▶

ゼロカーボンアクション30
できることから始めよう
暮らしを脱炭素化!



Myスイッチ!Goグリーン!
地球にもわたしにも嬉しい
エコマガジン!

